

ひょうご部落解放・人権研究所

編集・発行 /

一般社団法人 ひょうご部落解放・人権研究所

# HB 通信

Hyogo Buraku Liberation and Human Rights Research Institute

〒650-0003

神戸市中央区山本通 4-22-25 兵庫人権会館 2 階

TEL : 078-252-8280 FAX : 078-252-8281

e-mail : blrhyg@extra.ocn.ne.jp

URL : <http://www6.ocn.ne.jp/~blrhyg/>

大谷強前所長の辞任に伴い、2013年6月3日開催の理事会において、一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所所長に、石元清英関西大学教授が就任いたしましたので、お知らせいたします。

## 所長就任のあいさつ

1981年のことです。当時、兵庫部落解放研究所（現在のひょうご部落解放・人権研究所）の所長を務めておられた鶴嶋雪嶺先生（現・関西大学名誉教授）から、農村地域の部落の生活実態調査をやってみないかと、お話がありました。そのころの私はまだ大学院生でしたが、部落問題については高校時代から関心があり、引き受けることにしました。それで兵庫県各地の部落を歩くうち、部落問題が私の専門分野となり、いまに至ったというわけです。このように、研究所は私の研究者生活の出発点であるといえます。このたび、こうした深い縁のある研究所の所長の任に就くことになりました。

兵庫県の部落は非常に多様です。そして、2002年の対策事業の終了後は、それぞれの部落がかかえる個別の課題が深刻さを増してきています。一方、人権全般の状況をみると、市民の人権意識は着実に高まってきているものの、近年、自己責任論が台頭し、生活保護受給者へのバッシングや、在日韓国・朝鮮人に対するヘイトスピーチが目立ってきています。

みなさまのご助言とご協力を得ながら、こうした現状に対応できるように、調査研究活動や教育啓発活動に、研究所研究員・スタッフ一同とともに取り組んでいきたいと考えています。

ひょうご部落解放・人権研究所 所長 石元清英

## 新着図書

### 2012年7月

- 『隣保館先進事例集 人をつなぐまちをつくる』（全国隣保館連絡協議会制作、大阪府総合福祉協会、2011.3）
- 『2011年度年次報告書』（DPI 日本会議、2012.7）

- 『20周年記念誌 ウィメンズネット・こうべ 20年のあゆみ～繋がる・寄り添う・信頼する』（ウィメンズネット・こうべ、2012.5）

### 9月

- 『兵庫におけるあいつぐ差別事件』（部落解放同盟兵庫県連合会、2011.4）
- 『子どもと教科書全国ネット 21 第15回総会・議案書』（子どもと教科書全国ネット 21、2012.6）

### 10月

- 『第17回兵庫県連女性部大会 部落解放第52回兵庫県女性集会』（部落解放同盟兵庫県連合会、2012.6.30）
- 『IMADR-JCブックレット15 企業と人権 インド・日本 平等な社会のために』（反差別国際運動日本委員会 (IMADR-JC)、2012.9）
- 『全国水平社創立90周年記念 部落解放運動10年の軌跡—2002年～2011年』（部落解放同盟中央本部、2012.3）

### 8月

- 『<日本・在日・韓国>ユースリンク 社会とわたし！～青年による持続的対話の空間～』（在日コリアン青年連合 (KEY)、

- 『部落解放研究第33回兵庫県集会討議資料』（部落解放研究第33回兵庫県集会実行委員会刊、2012.10）
  - 『公益財団法人地方自治総合研究所—活動と組織の概要』（地方自治総合研究所）
  - 『労働組合をなんにも知らない『宮崎なつき』が執行委員になって組合活動に取り組んだら THE JICHIKEN【自治権活動の実践】』（自治研中央推進委員会編、全日本自治団体労働組合（自治労）、2011.8）
  - 『第34回地方自治研究全国集会 3日目全体集会』（自治研中央推進委員会）
  - 『第34回地方自治研究全国集会 全体集会』（自治研中央推進委員会）
- 11月
- 『あまがさき人権まつり 2012—熱と光の祭典』（あまがさき人権まつり実行委員会刊、2012.11）
  - 『「解放新聞」滋賀県版で見る県内の差別事件』（部落解放同盟滋賀県連合会刊、2012.11）
- ※一部を除く所蔵図書の「のじぎく会館」への寄贈等のため、図書の整理が遅れております。一部利用できない図書がありますので、図書をご覧になりたい方は、必ず事前にお問い合わせください。ご迷惑をおかけして申し訳ありません。

## まんがのすゝめ

### 『きのう何食べた？』第1巻～第7巻

よしながふみ／講談社 2007年～2013年以下続刊  
 定価：第1巻～第4巻各600円（税込）第5巻～第7巻各610円（税込）



朝、情報番組を見てもなしに流しながら身仕度をしてたとき、ん？と耳にひっかかる話題があった。

ある男性芸能人が恋人の女優にフラれて失意のどん底にあった。そんなとき、傷心の彼を癒すため、音楽CDや、それを聞くためのオーディオセットまでプレゼントした人物がいるという。「さては新恋人出現か？」とにおわせてCMへ移ったあと、明かされた人物は、男性のお笑い芸人だった——。「新恋人」は「女性」という概念をくつがえす結末と、「男性同士」は、ありか、なしかに、出演者たちは「それはムリでしょ～」とはしゃぎまくる。

これが、「外国人」や「障害者」、「部落の人」をにおわせるものだったら大問題、というか、テレビではありえない。でも、「ゲイ」や「レズビアン」は、「差別」ご法度のテレビ界ですら、未だに貶めてもかまわない分野として現存している。世間の彼らへのまなざしは、推して知るべし。日本は多様な性を認める社会から、ほど遠いところにある。

よしながふみの『きのう何食べた？』は、弁護士の笈史朗と美容師の矢吹賢二、40代ゲイカップルの日常を描いた作品だ。一話完結で週刊モーニング（講談社）に連載中だが、ページの多くが料理の作り方に割かれている。

二人のうち、主に料理を作るのはイケメン弁護士の笈史朗。彼はたとえ遠くとも一円でも安いスーパーまで足をのばし、食材を無駄にせず使い切ることに無上の喜びを感じる男だ。食事は、甘い辛い酸っぱいのバランスをとり、旬の野菜をふんだんに取り入れる。メタボが気になるお年頃なので、もちろんカロリーにも気を配る。

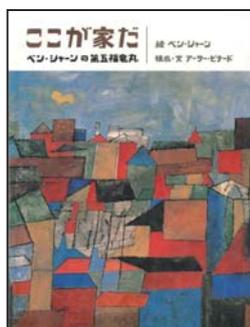
「食べる」ことを軸に、彼らの仕事や生活、そしてゲイであることに対する周りの反応や、自身の葛藤が自然な形で描かれる。相手の生真面目さが気づまりだったり、過剰な反応に辟易したり。カミングアウトできない自分を正当化したり、なじったり。家族の中途半端な理解に悩んだり、諦めたり——。彼らの日常を淡々と描きながら、ゲイが直面する深刻な問題も、さらりと取り入れ、笑いに浄化してしまう。

読み進めるうちに、なかなか出会える機会がない（出会っていても気づかないだけかもしれないけれど）ゲイのカップルが、古くからの知人のように思えてくる。そして、あたりまえのことに気付く。私たちの日常は、それぞれ形は違うけれど、「食べる」という行為とともに、甘い、辛い、酸っぱいというバランスをとりながら、紡がれているのだと。（K）

## 本の紹介

### 『ここが家だ—ベン・シャーンの第五福竜丸』

絵:ベン・シャーン 構成・文:アーサー・ビナード、集英社、2006年9月刊



定価 1600円(税抜)

1954年3月1日、マーシャル諸島のビキニ環礁で、アメリカが水爆実験をおこなった。マーシャル諸島の住人が被曝し、近くでマグロ漁をしていた日本の「第五福竜丸」の船員23人が「死の灰」を浴びた。

無線長の久保山愛吉さんは、自分たちが軍事機密に遭遇したことを察知し、無線を打たず「放射能病に耐えながら」2週間かけて静岡県焼津に帰った。発信が傍受されれば、自分たちが攻撃目標にされかねないと分かっていたからだ。半年後の9月23日、久保山さんは「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」と言って亡くなった。

3年後、アメリカの画家ベン・シャーンが久保山さんを主人公にして「Lucky Dragon Series」という連作を描いた。ベン・シャーンはリトアニアに生まれ、7歳のときに移民の子としてアメリカに移住し、石版工として働きながらニューヨーク大学などでデザインを学んだ。冤罪で死刑になった「サッコとヴァンゼッティ事件」の連作もある。

「Lucky Dragon Series」について、ベン・シャーンはこう語っている。

「放射能病で死亡した無線長は、あなたや私と同じ、ひとりの人間だった。第五福竜丸のシリーズで、彼を描くというより、私たちみなを描こうとした。久保山さんが息を引き取り、彼の奥さんの悲しみを慰めている人は、夫を失った妻の悲しみそのものと向き合っている。亡くなる前、幼い娘を抱き上げた久保山さんは、わが子を抱き上げるすべての父親だ」

50年後、この「私たちみなを描こうとした」思いを全身で受け止めて、アメリカ生まれの詩人アーサー・ビナードが日本語で詩を書き絵本にしたのがこの本である。時代を超えて結ばれた思いに胸を打たれる。

アーサー・ビナードには、広島平和記念資料館収蔵の「モノ」たちの声を聴き取り詩をつけた写真絵本『さがしています』(写真:岡村禎志、童心社)もある。こちらもお勧めしたい。(H)



表紙写真:「鍵束」寄贈者・中村明夫 (広島平和記念資料館所蔵)

一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所

## 『人権歴史マップ』連続セミナーのご案内

### 第3回 神戸電鉄朝鮮人労働者モニュメント —神戸に残る朝鮮人の記録

▶講師: 飛田雄一さん (神戸学生青年センター館長)

▶日時: 2013年9月7日(土) 午後2時~3時30分  
▶場所: 兵庫人権会館2階  
▶参加資料代: 1回500円



神戸といえば、異国情緒溢れる港町といった華やかなイメージをお持ちの方も多いと思います。確かに1868年の開港以来、日本の玄関口として国内外の多くの人、モノ、文化が交錯し、発展してきました。しかしその繁栄を支えるために、厳しい人生を歩まなくてはならない人たちもいました。

例えば、1920年代から30年代、三田や有馬温泉などと神戸市街をつなぐ鉄道(現神戸電鉄)の線路敷設工事には、多くの朝鮮人が従事しました。その数は1200人から1800人と推定されています。多くの方が日本へ渡った背景には、日本の植民地支配がありました。労働条件は過酷で、死亡事故もありました。1927年の労働争議では朝鮮人労働者1200人がストライキに参加しています。また、戦時中には朝鮮人の他に中国人や連合軍捕虜が動員され、港での荷役や造船所や製鉄所の労働者として働かされ、空襲や事故で多くの犠牲者をだしました。

セミナー第3回は、神戸学生青年センター館長の飛田雄一さんに講師としておいでいただき、神戸に残る朝鮮人の足跡を中心に、お話ししていただきます。多数のご参加をお待ちしております。

▶お申込み・お問合せ ひょうご部落解放・人権研究所 TEL (078) 252-8280 mail blrhyg@extra.ocn.ne.jp

# 部落解放研究第34回兵庫県集会

日本国憲法を守り、あらゆる人の人権が尊重される社会を築くために  
— 狭山事件 50 年、市民の力で一日も早い石川さんの無罪を！ —

- 開催日：2013年10月19日（土）～20日（日）
- 参加費：3500円（資料・報告書など） ●宿泊費：13000円（夕・朝食費含む）
- 会場：城崎大会議館他 ●主催：部落解放研究第34回兵庫県集会実行委員会

記念講演 1日目（11：15～12：30）

## 「日本国憲法について考える」

講師：朴一さん

（大阪市立大学大学院経済学研究科教授）

▶講師プロフィール

1956年、兵庫県尼崎市に生まれる。在日コリアン3世。同志社大学大学院博士課程修了。商学博士。大阪市立大学大学院経済学研究科教授。テレビ朝日『ビートたけしのTVタックル』、読売テレビ『かんさい情報ネットten』など、数多くのテレビ・ラジオ番組に出演。在日問題や日韓、日朝経済や外交問題について独自の視点から提言する。著書に『〈在日〉という生き方』（講談社選書メチエ）、『日本人と韓国人「タテマエ」と「ホンネ」—「韓流知日」を阻むもの—』（講談社）、『在日コリアン辞典』（共著／明石書店）など、多数。



シンポジウム 2日目（9：00～12：00）

## 「石川一雄さんの無罪を勝ち取るために」

▶パネリスト

金 聖 雄（映画監督）

安田 聡（部落解放同盟中央本部）

池田千津美（部落解放同盟兵庫県連合会）

森蔭 守（部落解放兵庫県民共闘会議）

1963年5月1日、埼玉県狭山市でおこった狭山事件（女子高校生誘拐・殺害事件）。狭山市内の被差別部落で暮らしていた石川一雄さん（当時24才）は、この事件の犯人として何ら証拠がないまま別件逮捕され、無期懲役の判決を受けました。

今回のシンポジウムでは、映画「みえない手錠をはずすまで—狭山事件 石川一雄」の監督・金聖雄さんをお招きし、狭山事件50年を振り返り、石川さんの冤罪を晴らすため、わたしたちに何ができるのかを考えます。

分科会・フィールドワーク 1日目（13：30～16：30）

### ■第1分科会 私たちが求める「住みやすい地域」とは？

- ・隣保館のありようを考える／大北規句雄（『隣保館』著者）
- ・隣保館を活用したまちづくり—上ノ島コミュニティエリア実現のとりくみ／川面千鶴江（上の島まちづくり会議保育部会）

### ■第2分科会 差別のかたち

- ・ヘイトスピーチ・ヘイトクライム—在特会にみる日本の排外主義運動／郭辰雄（コリアNGOセンター）上瀧浩子（弁護士）
- ・障害をもつ女性の複合差別／佐々木貞子（DPI日本会議）

### ■第3分科会 人権啓発—内容の充実を求めて

- ・企業の人権啓発のとりくみ／桜井敏（兵庫人企連）
- ・ジェンダーで読み解く現代社会／石元清英（ひょうご部落解放・人権研究所所長／関西大学教授）

### ■第4分科会 不正な個人情報の取得を防ぐため、県内すべての自治体で「本人通知制度」の実施を

- ・三木市市民ふれあい部市民課市民グループ
- ・篠山市市民課

### ■フィールドワーク 但馬に残る朝鮮人労働者の足跡

- ・講師：徐根植（兵庫朝鮮関係研究会代表）

お申込み・お問い合わせは…

ひょうご部落解放・人権研究所 県研実行委員会担当  
TEL：078-252-8280 / FAX：078-252-8281



鉄道工事中職斃病死者招魂碑前にて  
（新温泉町、2009年フィールドワーク）